

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	国語Ⅲ B
科目基礎情報					
科目番号	33002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	制御情報工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	「精選現代文B 改訂版」(三省堂)、「ステップアップ高校漢字問題集」(東京書籍)、「カラー版新国語便覧」(第一学習社)				
担当教員	赤迫 照子				
到達目標					
①読む力: 文法事項を理解し、作品を読解できる。常用漢字が読める。 ②書く力: 論理的な文章が書ける。常用漢字の書き取りができる。 ③話す力: 適切に音読できる。根拠を明示しながら自分の意見を述べるができる。 ④聞く力: ポイントを的確に聞き取り、情報を整理できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	確認試験に9割以上正答できる。	確認試験に8割以上正答できる。	確認試験に7割以上正答できる。	口頭試問に5割しか正答できない。	
評価項目2	演習問題に8割以上正答できる。	演習問題に7割以上正答できる。	演習問題に6割以上正答できる。	演習問題に5割しか正答できない。	
評価項目3	漢字テストに8割以上正答できる。	漢字テストに7割以上正答できる。	漢字テストに6割以上正答できる。	漢字テストに5割しか正答できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	第2学期前半開講。検定教科書を用いる。評論文を重点的に読み、論理的思考力を鍛える。漢字や語彙の力を身につける。				
授業の進め方・方法	教科書本文の読解をする。応用として、評論文の読解演習を行う。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートの「演習問題」・漢字テストを課す。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物については、厳しく対応する。締切を厳守すること。</li> <li>適宜、プリントを配付する。ファイルを準備し、きちんと整理しておくこと。</li> <li>授業は週2回である。自学自習にしっかり励むこと。</li> </ul>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス (評論3) 見田宗介「南の貧困/北の貧困」①	見田宗介「南の貧困/北の貧困」を読むことで、評論文を読む方法を身につける。接続語や指示語等に注目しながら文脈を把握することができる。段落同士の関係に注意しながら、論理の展開や要旨を的確にとらえることができる。抽象的な事象について、具体例を補いながら読解することができる。筆者のものの見方や考え方が理解できる。	
		2週	(評論3) 見田宗介「南の貧困/北の貧困」②	評論文を読む方法を身につける。	
		3週	(評論3) 見田宗介「南の貧困/北の貧困」③	評論文を読む方法を身につける。	
		4週	(評論3) 見田宗介「南の貧困/北の貧困」④	評論文を読む方法を身につける。	
		5週	評論文の読解演習① 宮下紘「忘れられる権利」解説	評論文を読む方法を身につける。	
		6週	評論文の読解演習② 柳澤桂子「病と科学」解説	評論文を読む方法を身につける。	
		7週	評論文の読解演習③ 大西赤人「判断停止の快感」解説	課題文を読む方法を身につける。	
		8週	確認試験 見田宗介「南の貧困/北の貧困」		
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	

			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合				
	確認試験	レポート	小テスト	合計
総合評価割合	30	40	30	100
知識の基本的な理解	10	20	30	60
思考・推論・創造への適用力	20	20	0	40